

(4)新品種等の開発

農業試験場では、農業を取り巻く様々な情勢の変化に的確に対応した競争力の高い新品種の開発や、生産性を向上させる革新的な技術開発を行っています。

これまでに、いちご「栃木 i 27号(名称:スカイベリー)」をはじめ、水稻「とちぎの星」、ビール醸造用大麦「ニューサチホゴールド」、にら「ゆめみどり」、りんどう「栃木 r 2号(名称:るりおとめ 月あかり)」、「栃木 r 3号(名称:るりおとめ 星あかり)」などを育成してきました。また、最近では、いちごの新品種「栃木 i 37号(名称:とちあいか)」や白いちご「栃木 i W 1号(名称:ミルキーベリー)」、醸造適性の高い酒米「夢ささら」、炊飯後の褐変が少ないもち性の食用大麦「もち絹香」、八重咲きのあじさい「パラソルロマン」、「エンジェルリング」、「プリンセスリング」を新たに育成したことから、県産農産物のブランド力向上への寄与が期待されます。

また、農産物の高品質・多収を実現するため、いちご・トマトで最新の調査方法を活用し、栽培支援システム(CO₂施用・温度管理技術等)の開発や、環境制御による果樹類の挿し木技術の開発に取り組むとともに、水稻・トマト・なし・ぶどう・ばらの温暖化対策技術や効率的な施肥技術、天敵生物農薬を活用した防除技術など、気候変動への対応や環境に配慮した生産技術の開発も行っています。



あじさい「エンジェルリング」「プリンセスリング」公表

事例 全雌三倍体サクラマスの開発

水産試験場では、平成28年から管理釣り場向けの本県オリジナル魚種「全雌三倍体サクラマス」の生産に向けて技術開発を進めてきました。その結果、平成29年に、生産に必要な「性転換雄」(雌に雄性ホルモン等を投与して雄にしたサクラマス)の作出に成功しました。開発段階から生産現場での試験を行うことで、令和元年度には管理釣り場への試験出荷が行われ、釣り人からは「引きが強い」、「また釣りたい」などの高評価が得られました。令和2年の秋から、「大型」、「釣り味が良い」、「おいしい」という特徴を備えた「全雌三倍体サクラマス」の管理釣り場への出荷が始まっています。

一般的なサクラマスは、秋に成熟して死亡してしまいますが、「全雌三倍体サクラマス」は成熟しないため、通年出荷が可能になりました。年間を通して管理釣り場に出荷されることで、県内管理釣り場への誘客促進や養殖生産者の収益性の向上につながることが期待されます。

また、「全雌三倍体サクラマス」を本県のブランド魚に育成していくため、名称について商標登録を進めています。



全雌三倍体サクラマス



管理釣り場で釣られた全雌三倍体サクラマス

事例 あじさい新品種「エンジェルリング」・「プリンセスリング」の開発

農業試験場において、八重咲きで白い覆輪(ふちどり)が特徴のあじさい新品種「エンジェルリング」・「プリンセスリング」を開発しました。

「エンジェルリング」は、八重のコンパクトなガクあじさいで、花の色が赤紫に白い覆輪が入り、「プリンセスリング」は、「エンジェルリング」より装飾花が大きく、白い覆輪が多く入るのが特徴です。

令和元年7月に農林水産省に品種登録を出願したことから、あじさいの県育成品種は「きらきら星」、「パラソルロマン」と合わせ4品種となりました。令和3年4月下旬以降に一般販売が開始され、母の日などの贈答用としての需要拡大が期待されます。



あじさい「エンジェルリング」



あじさい「プリンセスリング」